

本学に献体された方のご遺族並びにくすのき会会員の皆様へのお知らせ

—「仙骨脊柱管内容物の解析および脊柱管内操作治療の有用性の検討」へのご協力をお願い—

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者	川崎医科大学脊椎・災害整形外科	准教授	中西一夫
研究分担者	川崎医科大学脊椎・災害整形外科	講師	射場英明
	川崎医科大学脊椎・災害整形外科	臨床助教	内野和也
	川崎医科大学脊椎・災害整形外科	臨床助教	渡辺聖也
	川崎医科大学脊椎・災害整形外科	臨床助教	三崎孝昌
	川崎医科大学生理学2	大学院生	林 範人
	川崎医科大学解剖学	講師	小野公嗣

1. 研究の概要

当院では、合併症などにより全身麻酔下での手術が出来ない患者に対して、局所麻酔下で硬膜癒着剥離術を行っています。しかしその効果は一時的であり、この局所麻酔下での治療をさらに発展させ、脊柱管内から手術が行えれば、より多くの患者を救うことができると考えます。そのためには、その手術を行えるかどうか仙骨裂孔から仙骨および腰椎にかけての脊柱管の解剖および馬尾神経の走行などを十分熟知しておく必要があります。本研究では、ご遺体をお借りして、仙骨裂孔から仙骨および腰椎にかけての脊柱管の解剖脊柱管内操作が可能かどうかを検討します。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

くすのき会よりご献体いただいたご遺体をお借りして上記研究を実施します。

2) 研究期間

倫理委員会承認日～2020年3月31日

3) 研究方法

本研究では、ご遺体をお借りして、仙骨裂孔から脊柱管の直径や形状、さらには走行する馬尾神経の状態を把握し、仙骨裂孔から仙骨および腰椎にかけての脊柱管の解剖および脊柱管内操作が可能かどうかを検討します。

4) 使用する情報の種類

ご遺体に対し脊柱管の解剖および脊柱管内操作を行い、その結果を検討します。なお、特定の人物と確認できる部位の写真撮影は行いません。また、本研究において個人が特定できるような個人情報に関わるデータは一切使用いたしません。

5) 情報の保存 及び二次利用

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、川崎医科大学脊椎・災害整形外科教室内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。なお、保存した情報を用いて新たな研究を行う際は、倫理委員会にて承認を得ます。

6) 研究計画書および個人情報の開示

ご遺族のご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、ご遺族が希望される場合にのみ行います。内容についてわかりにくくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、ご遺体が研究に使用されることについて、ご遺族の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2019年12月15日までの間に下記の連絡先までお申し出ください。

<問い合わせ・連絡先>

川崎医科大学附属病院整形外科

氏名：中西一夫

電話：086-462-1111 内線 25507 (平日：8時30分～17時00分)

E-mail：seikei@med.kawasaki-m.ac.jp

3. 資金と利益相反

この研究は、学内研究費を用いて行われる予定です。

本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。